

# 松江エネルギー研究会

自主企画「繋がる」「広がる」「深まる」

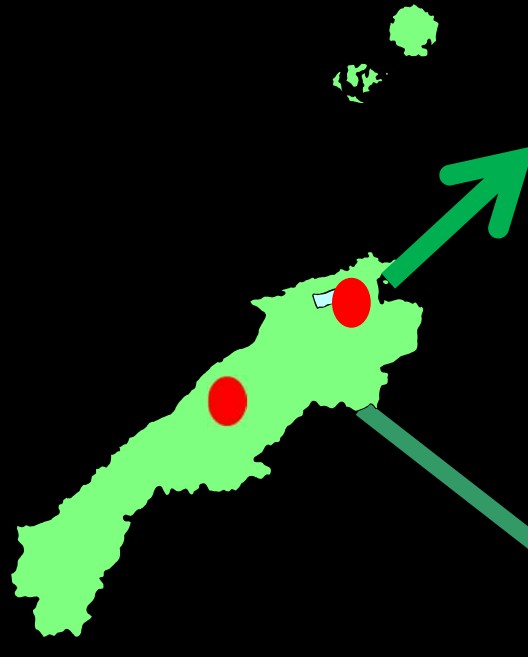
代表 石原孝子

設立 : 2004年10月1日

宍道湖

松江エネルギー研究会

島根原子力発電所



島根県松江市

原子力発電所立地県都

原子力やエネルギーについて、  
「良い」「悪い」ではなく、  
「正確に知ろう！」を目的

会のテーマ

みんなまで  
考えよう  
エネルギー  
のこと



地層処分を知るために  
まず私たちが  
基本から学ぼう！  
～見たこと！聞いたこと！  
伝えたいこと！地層処分～

# 三瓶小豆原埋没林

地中に縄文時代(4000年前)  
の森が埋もれていました。



# ① 繋がる

次世代層と一緒に

島根大学・松江高専・米子高専





東海第二発電所



地質標本館

## ② 繋がる

## 他団体と一緒に

# 原発のごみ処分を考える会

(福井県鯖江市)





# ③ 繋がる

## 他団体と一緒に

### 中学生サミット

(「学術フォーラム『多価値化の世紀と原子力』」)



# ① 広がる

## 学生視察報告会



# ② 広がる

# マスコミ対応



山陰中央新報

ルポ 幌延深地層研究センター

## 地質や地下水の動き研究

幌延深地層研究センターの地下250mに掘られた坑道—北海道幌延町

### 地元なし崩しの決定懸念

原発を動かせば高レベル放射性廃棄物（核のごみ）が発生する。中国電力島根原発（松江市鹿島町片包）も例外ではない。核のごみの最終処分場の選定について国民の関心が高まっている中、北海道幌延町にある日本で唯一、地下に坑道を掘って地層処分を研究する「幌延深地層研究センター」を10月に訪ねた。

（政経部・高見維吹）

工事中エレベーターで真っ暗な縦穴を2分間ほど下降すると、地下250mの地点の地下坑道に到着した。気温は地表より2、3度高く、配管から「コー」とい

う大きな音が響き、会話がまともにできない。地中からメタンガスが漏れる恐れがあるため、地上の空気を循環させているという。

幌延深地層研究センターは、地層の性質や地下水の動きを研究。地下は地表と比べて地震の揺れが軽減される。一方、幌延町がなし崩し的に処分地に決まってしまう計画がなく、処分場選定の道筋もつかない現状が、憶測を呼んでいるという。

政府が原発に頼り続ける限り、核のごみは増え続ける。センターを視察した市民団体「松江エネルギー研究会」の石原孝子さん（66）は「地元は島根原発があっても地層処分について知らない人がほとんど。未来につけを回さぬよう、今の世代が自分事として考えなければいけない」と話した。

れ、酸素量が少ないため腐食のスピードが遅く、処分地に適しているという。案内した国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）の同センター総務課の共生課、井上裕一（副）主任は「処分地が決まればわれわれの研究が生かせる」と力を込めた。

「JAEAは、北海道と幌延町の3者で、将来的に坑道を埋め戻すことや、放射性廃棄物を持ち込まないことを盛り込んだ協定を結んでいる。ただ、全体で地下500mまで掘ることを決め、研究期間も2028年度まで延長。こうした動きに加え、埋め戻しの具体的な



# ③ 広がる

# 情報発信

松江エネルギー研究会 代表 石原孝子 島根県松江市北堀町215 設立 2004年10月1日

「エネルギーをみんなでもっとよく使う」

松江市は全国で唯一、県庁所在地にある原子力発電所立地の地域です。市民の立場で身近なエネルギー、原子力、放射線、地層処分を考え、「いい」「悪い」という判断ではなく、「正確に知ろう」を目的に勉強会、講演会、学生とのコラボを中心に活動。

令和4年(2022・4・1~2023年・3・31) — 活動 —

1) 12月 金田武司氏 エネルギー講演会 協賛『フォーラム・エネルギーを考える』

昨年度、コロナ蔓延に伴い急遽中止となった島根県民会館中ホールで開催予定だった、株式会社ユニバーサルエネルギー研究所代表取締役社長の金田武司氏のエネルギー講演会を、サンラボむらぐもで開催しました。真剣な眼差しで聞き入る約70名の方からは「とても内容が充実したエネルギー講演会でした」この講演会は共催に中国電力・環境とエネルギーを考える消費者の会。後援にしまねフォーラム・エネルギー問題協議会のご協力で開催しました。

感想

- エネルギーと経済の両立を考える良い機会となりました。
- 非常に分かり易い説明だった。普段ニュースでは載えてくれないエネルギー問題の背景が良く分かりました。
- 何とかなると思っていたエネルギーは、実は国の富を流出させて、国力も削がれて成り立っていることを痛感した。
- 日本のエネルギー危機を自力で乗り越えてきたことが良く分かりました。日本の独自技術のすばらしさを実感できました。
- 世界の競争はエネルギーの奪い合いだということ、経済はエネルギーに左右されることが良く分かった。原子力は経済回復に必須と感じた。

おまけ

今年度は松江エネ研と、米子高専とのコラボ授業を開催。第一弾として、松江講演会の前日12月9日(金)に120名の学生へ講演をして頂きました。

感想

- 世界で起きている問題の裏側には必ずと言っていいほどエネルギーが絡んでいるということを知った。
- 大正時代あたりになって生活に電気の明かりが生まれたこと。日本は石油の消費量のほとんどを輸入しているため、輸入が困難になると急激に経済が衰えることがわかりました。

エネルギーの重要性を学ぶ講演会

「地層処分を知るための視察」

視察先 (島根県)三瓶山小豆原埋設林公園、島根原子力発電所、(茨城県鹿嶋市)東海第二原子力発電所使用済燃料乾式貯蔵施設、日本原子力研究開発機構ENTRY&QUALITY、原子力科学館、(茨城県つくば市)つくばエクスセンター、地質情報センター。地質情報センター エネルギーを始め、地球のことを知るために視察をしました。

幌延深地層研究センター 地下260m に行ってきました。

松江エネルギー研究会 (2022年10月撮影)

本誌は「2022年度地層処分事業の理解に向けた自主企画支援事業」で作成しております。

30~10月 県民会館 303会議室



# ① 深まる

# 次世代の教育


## 米子高専での地層処分と放射線 授業



# ② 深まる 地質専門家の話

## 「地層処分地の地質」 丸井敦尚先生 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)



どうすれば地層処分は安全なのか? 

多量バリアシステム

人工バリア

天然バリア

地下水の何がわかれば安全性が担保されるか?

地下水流速  
地下水質 ⇒ だったら地質と地下水を調査すればいい  
地下水温

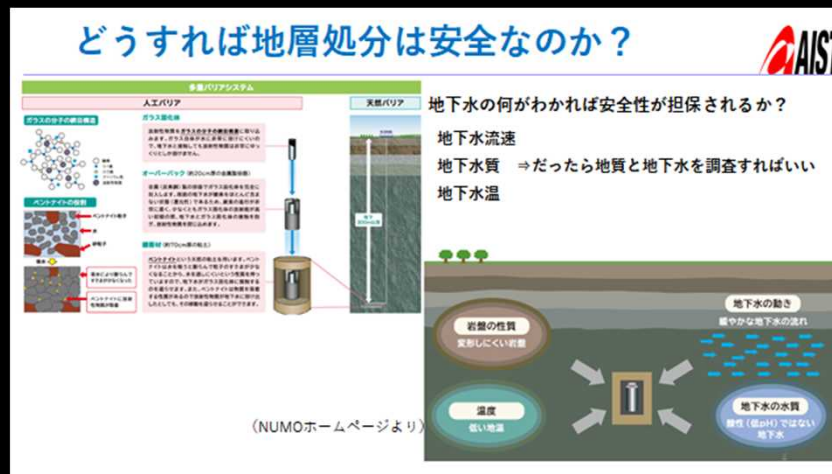
岩盤の性質  
実効性が高い岩盤

温度  
低い地温

地下水の動き  
緩やかな地下水の流れ

地下水の水質  
酸性 (pH) ではない  
地下水

(NUMOホームページより)





ご清聴

ありがとうございました。